

# ドクター・コロ 八重山を歩く ⑤

6回シリーズ

—沖縄アラカルト—

大平 政樹(金沢市・外科)



コロは凝り性である。近くで開業する歯科医の姉は「あんたはオタクだわ」と顔を見る度に口にする。決して褒めていないことは確かだ。まあ、この歳になると何を言われなくてもあまり気にならない。人生、楽しくなくっちゃ、生きてる価値なんてない。これはコロの親愛なる友人北山ドクターの言である。

沖縄への旅だが、下調べがとっても楽しい。どこに泊まって、ど



はいむるぶしを一枚の写真で収めるのは不可能だ。別棟は一流ホテル以上に豪華、若い女性の憧れの別天地だ。

鍾乳洞に半額で入場できるとか・・。まあ、確かにマニアックである。でも同じ物がお得に手に入ると、何かとつてもうれしい。新石垣空港に到着すると、まず目に入るのが「南ぬ島」と大きく書かれたキャッチフレーズだ。初めて沖縄に来た方は絶対に読めない。「みなみぬしま」って、何だ？ ふむ、ふむ！ 正解は、「ぱいぬしま」である。南は「はい」と読む。石垣島では方角はこれだけ読めればよい。ちゆらさんの島、小浜島には超有名なリゾート施設「はいむるぶし」がある。ホテル、コテージ、プライベートビーチ、牧場、テニスコート、そして広大な芝生。池には引退

した水牛が水浴びをしている。総面積は十二万坪、島全体の五分の一を占めるというから、驚きだ。小浜島へ行くと、必ずガイドさんが尋ねてくる。「皆さん、はいむるぶしの意味を知ってますか？」コロが参加した読売旅行のお客さんは、全員沈黙。

「はいむるぶし」を分た。「はいむるぶし」を分た。つまり、「え音」と「お音」が欠落している。ここまですべて説明すると、賢明な読者はもう気付かれただろう。「ほし」は「ふし」となり、「南の島」は「南ぬ島」となる。と言うわけで、「はいむるぶし」は「はいむるぶし」である。



今では帯だけでなく多様な商品が織り出されている。織物やバッグ、財布、お着物などが生産されている。

石垣島のお土産だが、コロンを買った。結構いい口一番のお薦めは、ミンサー織りだ。八重山のミンサー織りは竹富島が発祥だが、現在は石垣島が主生産地となっている。五つの□と四つの□が交互に並んで構成する独特の縞模様特徴である。本来は帯が元祖だが、今はファッションから、バッグや財布など装飾品にまで用途が広がっている。八重山ではかつて通い婚の風習があり、女性が思いを込めて男性に帯を贈ったとのことである。五つの□と四つの□を繋いでいくことで、「いつ(五)の世(四)までも、足しげく私の元へ通ってください」という隠れた意味がある。ちなみに、私はこの財布バー

ラッキーを買った。結構いいお値段で、ミンサー工芸館で二万円もの値札が付いていた。うちの嫁さんによると、夏川りみが紅白歌合戦でミンサー柄の衣装で出演した由。夏川りみって、誰だ？うちの嫁さんが呆れてる。涙そうそう：それなら知っている。お土産の二番目は、塩ちんすこうと言いたいところだが、コロのお薦めは塩クッキーである。ちんすこうは有名な割に人気は今イチだが、この塩ちんすこうは塩が効いて、食べやすい。今では本島を含めて、ちんすこうは塩が定番となりつつある。でも塩クッキーはもっとおいしい。あと、島らっきょう！

原稿募集

趣味や旅行記

医療・福祉に関して

や平和

環境問題について

など

会員登録を

お待ちしています

編集部までご連絡ください

076(222)5373